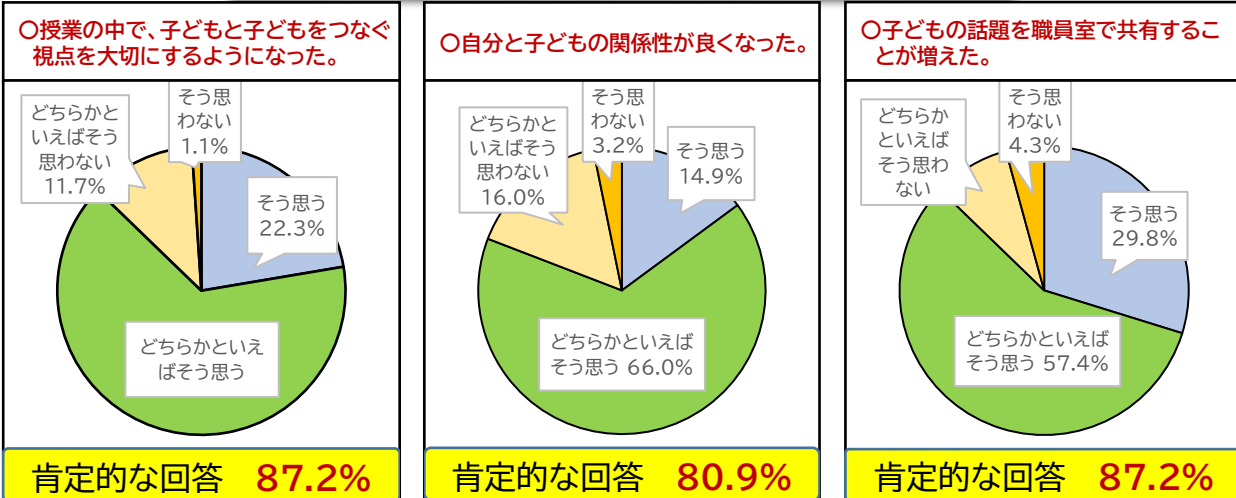


教職員のつながり意識(共通アンケートより)



「豊かなつながり」を生み出すためのポイント

- ・教職員同士の情報共有によって、児童生徒との距離を縮める方法を模索・実施すること。
- ・児童生徒主体の活動を創造・実施し、教職員がファシリテーターに徹すること。
- ・児童生徒が自分たちの力で作りあげたという達成感や成功体験を生み出す機会を創出すること。
- ・安心感が得られる居場所や相談・おしゃべりができる居人(いびと)の存在を大切にすること。
- ・児童生徒同士をつなぐ「リード役」の教職員は、児童生徒間のつながりができた時点で少しずつ存在感を薄めていくこと。
- ・教職員が人権と自分との関係性を語ること(自己開示)。
- ・人権通信や掲示物等の活用を図り、児童生徒の声や変容を発信すること。

◇「豊かなつながり」によって育まれる非認知能力◇

- ◆「自分にはよいところがある」という自己肯定感
- ◆「自分は必要とされている」という自己有用感
- ◆「自分はやればできる」という自己効力感
- ◆夢や目標を描く力「展望力・創造力・想像力」
- ◆レジリエンス(しなやかで折れない心・失敗しても挑戦し続ける心)
- ◆共感力(相手に寄り添い、感情を共有する力)
- ◆人とつながる力(協調性、異質な他者を受け入れる受容性)等



そして認知能力(読む力・書く力等)の向上にもつながります。

【人と人が豊かにつながる学校づくり支援アドバイザー 園田雅春先生】



・1948年京都市生まれ。教育実践研究者。
元大阪教育大学教授・同大学附属平野小学校校長(併任)。
これまで大阪府高槻市立小学校教諭、大阪成蹊大学教授、びわこ成蹊スポーツ大学客員教授等を歴任。学級文化研究会代表。

【令和3・4年度】

人と人が豊かにつながる 学校づくり支援事業

人と人が豊かにつながり、誰ひとり取り残さない学校づくり

◎近江八幡市立八幡西中学校

「差別をなくす居場所づくりにつながる
人権学習の創造」



子どもと教職員

◎高島市立新旭南小学校

「支え合い、認め合い、
高め合う集団を目指して」
—誰もが自分の力を発揮できる学校づくりと
子どもと子どもをつなぐ授業づくり—



教職員と教職員



地域と学校



子どもと子ども



保護者と教職員

◎栗東市立栗東西中学校

『心豊かでたくましい生徒の育成』をめざし、差別を許さず、
共に支え合い、共に高まり合える集団づくりに向けて
～確かな非認知能力と正しい人権感覚・実践力を養い、
確かな将来の展望をもてる生徒の育成～



令和2年より猛威を振るい始めた新型コロナウイルス感染症により、「仲間づくり」「集団づくり」の機会が急激に減少しました。つながりの希薄化を懸念し、有効な対策を模索するため、県内3つの学校が「豊かにつながる」ための学校づくりについて考え、取り組みました。

このリーフレットは2年間に渡り取り組んだ実践の成果や児童生徒・教職員の変容についてまとめています。他者を尊重することを大切にしながら、互いの多様性を認め合い、人と人が豊かにつながる学校づくりにご活用ください。



違いを認め合い 互いに尊重し 豊かなつながりを培う




学校の現状・課題

児童生徒

- 自分の思いを表現することが苦手である。
- 人権の大切さを理解しているが、行動で表せない弱さがある。
- 人間関係の構築、再構築の難しさが目立つ。
- レジリエンスが低い。
- 多様性を受け入れられない。
- 集団として互いを尊重する風土に欠けている。

学校・教職員

- 一方的な授業（教員主導型）に陥りやすい。
- 児童生徒一人ひとりを生かす授業計画が十分ではない。
- 「つなぐ」取組の経験が少ない。
- 教職員間の意見交流が少ない。
- 人権感覚の向上を目指そうとする姿勢に温度差がある。
- 差別解消を基軸とした取組の経験が不足している。

	具体的な取組一例	教職員の变容	児童生徒の変容
新旭南小学校	【児童の考えをつなぐことを意識した授業づくり】 ・児童主体の授業をめざした教職員の声かけ 【児童にとって切実感や必要感のある事柄について意図的に話し合う場の設定】 ・日常の課題を自分たちで話し合い解決できる集団づくり 【ニコニコ月間（校内人権月間）の取組】 ・人権学習、たてわり活動、異学年混成による学習の交流、自己を振り返る機会（にこにこシート）の実施	・児童の意見をつなぐことを意識する教職員が増えた。 ・研究授業等で参観するときに、児童をつなぐための工夫を視点としてもてるようになった。 ・年間計画の中に、人権学習を位置づけようとする意識する教職員が増えた。 	・児童同士の話し合いの力が高まった。 ・自他の人権を守るよさに気づき、相手のことを考えて学校生活を送りたいという思いをもつ児童が増えた。 ・たてわり活動を通して、高学年の児童が低学年の児童を気にかける姿が見られるようになった。
八幡西中学校	【支援のネットワークづくり】 ・生徒の気になる姿、つばやきを教職員間で日々共有 ・「つながる」「つなぐ」ための共通実践 【生徒アンケート分析】 ・「人とのつながり」と「学力」との相関関係や「挑戦」「役割」等の項目ごとに分析 【生徒が語り、生徒が創る人権学習】 ・導入として、50分間、担任の自己開示 ・実行委員を募り、生徒が語り生徒が進める人権学習の実施 ・実行委員が自作した人権啓発映像の上映	・教職員同士が語り合うことで、生徒の背景に深く関わり、生徒とつながるようになった。 ・休み時間に生徒に声をかける等、生徒とつながる時間を惜しまない教職員の姿が増えた。 ・家庭訪問に行く等、保護者とのつながりを大切にしている視点をもった教職員が増えた。 ・生徒アンケート結果に「人とのつながり」と「学力」の相関関係がみられたことから、「つながる」「つなぐ」意識が一層高まった。	・互いの思いや背景を知り、相手を丸ごと受け止め、つながろうとする生徒同士の姿が見られた。 ・休みがちな生徒を気にかけて教職員と語り合う等、園りを気にかける生徒が多くなった。 ・不登校だった生徒が学校に来られるようになったり、教室に入れなかった生徒が入れるようになったりした。
栗東西中学校	【ヒューマンタイム（人権学習）の深化】 ・教職員が差別問題と自分との関係性を語ることから始める人権学習の実施（自己開示） 【生徒がつくる人権集会】 ・生徒の声を反映し、生徒が主体となり、生徒が作りあげる人権集会の設定 【生徒の思いを引き出す寄り添い】 ・生徒と教職員の距離を縮めて、悩みやしんどさが出しやすい教室環境づくり	・生徒とつながろう、生徒の背景にせまろうとする教職員が増えた。 ・同僚間の意見交流を重ね、試行錯誤しながらも生徒同士をつなごうとする教職員の姿が増えた。 ・中学校区で非認知能力をキーワードとした「人と人が豊かにつながる」取組について共有できた。	・生徒が主体的に人権学習に取り組み、全校人権集会をつくりあげた。 ・学年を超えたつながりができ、一緒に勉強したり、悩みを相談したりする姿が見られた。 ・家庭の悩みを抱え、人との関わりが苦手だった生徒が、学級での関わりの中で実行委員等で活動するようになった。

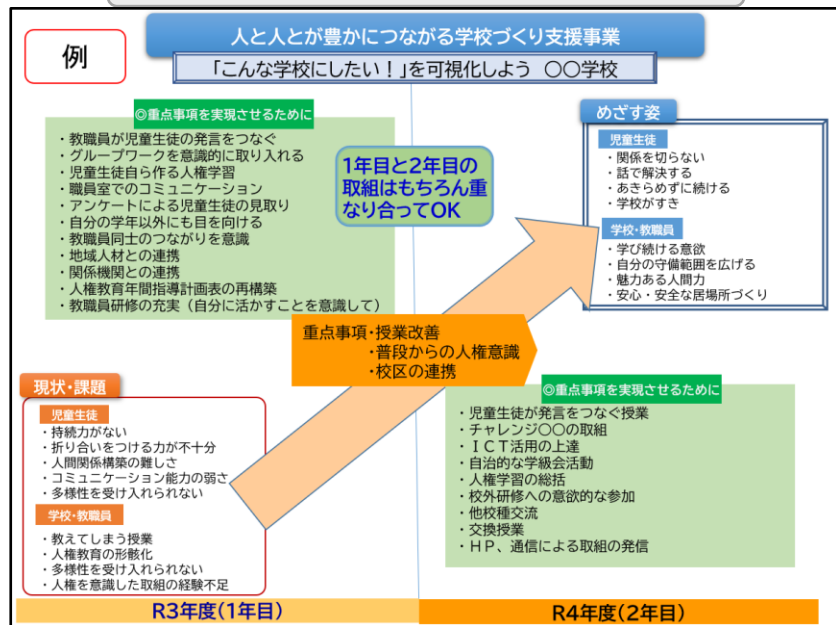
「教職員のプラス面」

- ◆児童生徒の背景を知ろうとする意識の向上（児童生徒との距離感短縮）
- ◆教職員同士の情報交流増加による一体感ある対応
- ◆児童生徒の発言を拾い、つなぐ授業の構築

「児童生徒のプラス面」

- ◆相手を気にかける姿の増加
- ◆話し合うの力の高まり（伝える力・聴く力の向上）
- ◆相手を知ろうとするつながり言動の増加
- ◆居心地の良い環境下での積極的な行動の増加

「こんな学校にしたい！」可視化シート



○可視化シートと年間指導計画表

各ベース校がこれらを活用し、人権教育を根幹に位置づけた学校づくりを推進していただきました。

校内研究や諸活動を振り返る際にPDCAサイクルを見直すきっかけとしてご活用ください。

当課ホームページより、可視化シートや共通様式データのダウンロードができます。



人権教育年間指導計画表（共通様式）※一部抜粋

学年等	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月
第1学年	(1) 人権一般 (2) 女性 (3) 子ども (4) 高齢者 (5) 障害者 (6) 同和問題 (7) アイヌの人々 (8) 外国人 (9) 患者 (10) 刑を終えて (11) 犯罪被害者等 (12) インターネット (13) 拉致被害者等 (14) 性別									
人権学習	差別の仕組み・仲間づくり(1)(3)					しょうがい者差別問題学習(1)(3)(4)(5)				
教科および道徳科	各教科を通して、自分の思いを伝え、相手の考えを理解できるコミュニケーション力の向上を図る。・自分の思いを出し合い共有する場(グループ学習)を設定する。									
第2学年	(1) 人権一般 (2) 女性 (3) 子ども (4) 高齢者 (5) 障害者 (6) 同和問題 (7) アイヌの人々 (8) 外国人 (9) 患者 (10) 刑を終えて (11) 犯罪被害者等 (12) インターネット (13) 拉致被害者等 (14) 性別									
人権学習	差別の仕組み・就職選択と就職差別(1)(6)(12)					部落差別問題学習(1)(6)(12)				
教科および道徳科	各教科を通して、自分の思いを伝え、相手の考えを理解できるコミュニケーション力の向上を図る。・自分の思いを出し合い共有する場(グループ学習)を設定する。									
第3学年	(1) 人権一般 (2) 女性 (3) 子ども (4) 高齢者 (5) 障害者 (6) 同和問題 (7) アイヌの人々 (8) 外国人 (9) 患者 (10) 刑を終えて (11) 犯罪被害者等 (12) インターネット (13) 拉致被害者等 (14) 性別									
人権学習	在日コリアン・在日外国人差別問題学習(8)(12)					性の多様性学習(1)(2)(14)				
教科および道徳科	各教科を通して、自分の思いを伝え、相手の考えを理解できるコミュニケーション力の向上を図る。・自分の思いを出し合い共有する場(グループ学習)を設定する。									

◆年間を見通した人権教育に関わる主な取組を「人権教育年間指導計画表(共通様式)」にまとめるための様式です。法務省が示している啓発活動強調事項17項目を各教科と関連させながら整理することができます。

◆現状や課題(左下)とめざす姿(右上)を明確にし、取組のポイントを全教職員が共通理解し、振り返りを行うためのシートです。